

N8190-165/166 Fibre Channel コントローラ

Starter Pack 適用における注意事項

N8190-165/166 のファームウェアは Starter Pack DVD からのアップデートができないことがあります。

N8190-165/166 をご使用の場合は、「Starter Pack 適用の流れ」に記載された「4. ファームウェアのアップデート」を実施後に本注意事項の【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアのバージョンを確認してください。

N8190-165/166 のファームウェアバージョンが全て「02.00.01」でなかった場合は、その後 OS セットアップ完了後に、改めて本注意事項の各 OS 用【適用手順】を参照して、N8190-165/166 のファームウェアを適用してください。

【ファームウェアバージョン確認方法】

下記のいずれかの方法でファームウェアバージョンを確認することができます。

<システムユーティリティ(System Utilities)での確認方法>

- 1) POST で F9 を押してシステムユーティリティ(System Utilities)を起動します。
- 2) システム構成(System Configuration)を選択します。
- 3) 対象の Fibre Channel コントローラを選択します。
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。
N8190-165/166: SN1100Q
- 4) アダプター情報を表示する(Display Adapter Info)を選択します。
- 5) ファームウェアバージョン(Firmware version)を確認します。

< iLO WEB インターフェースからの確認方法 >

- 1) マネージメント LAN 経由で接続し、iLO メニューを表示させ、「ファームウェア & OS ソフトウェア」を選択してください。
- 2) 「製品名」「ファームウェアバージョン」が表示されます。
対象となる製品の製品名とファームウェアバージョンを確認してください。
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。
N8190-165/166 : SN1100Q

【Windows Server 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) サーバに管理者権限でログインして Starter Pack S8.10-011.02 の/16g_fc/q/win/に収録された exe ファイルを任意のフォルダにコピーします。
- (3) コピーした exe ファイルをダブルクリックします。
- (4) 「パッケージセットアップ」ウィンドウが起動するので、バージョンが「2023.03.01」となっていることを確認して「インストール」をクリックします。
- (5) メッセージが表示されますので再度「インストール」をクリックします。
- (6) インストールが実行されます。完了まで数分かかります。途中ウィンドウのタイトルバーに「セットアップ(応答なし)」と表示されることがありますが、そのままお待ちください。
- (7) インストールが完了したことを確認したら「閉じる」をクリックします。
- (8) システム再起動が要求されたら「はい」をクリックして再起動します。
再起動が要求されない場合は手動で再起動します。
※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。
- (9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「02.00.01」となっていることを確認してください。
- (10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

【RHEL8 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。

設定を変更したら、サーバを再起動します。

- (2) サーバに root ユーザでログインします。

- (3) 光ディスクドライブに Starter Pack S8.10-011.02 をセットします。

- (4) マウントポイントを作成します。作成済みの場合は、本操作は不要です。

```
# mkdir /media/cdrom
```

- (5) Starter Pack S8.10-011.02 をマウントします。

```
# mount -r -t iso9660 /dev/sr0 /media/cdrom
```

- (6) /16g_fc/e/rhel ディレクトリへ移動します。

```
# cd /media/cdrom/16g_fc/q/rhel
```

- (7) 以下のコマンドを順番に実行します。

```
# rpm -Uvh HPE-CNA-FC-hpeqlgc-Enablement-Kit-6.0.0.0-18.noarch.rpm
```

```
# rpm -Uvh firmware-fc-qlogic-2023.03.01-1.1.x86_64.rpm
```

```
# cd /usr/lib/x86_64-linux-gnu/firmware-fc-qlogic-2023.03.01-1.1
```

```
# ./setup -f
```

- (8) OS を再起動します。

```
# reboot
```

- (9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「02.00.01」となっていることを確認してください。

- (10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。